

# JACET Kansai Newsletter

No. 91 November 1, 2021

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 植松 茂男 (同志社大学) (Chapter President: Shigeo UEMATSU, Doshisha University)

事務局: 〒650-8586 兵庫県神戸市中央区港島1丁目1-3 神戸学院大学

グローバル・コミュニケーション学部 仁科 恭徳 研究室内

(Chapter Office: c/o Yasunori NISHINA, Faculty of Global Communication, Kobe Gakuin University)

URL: <http://www.jacnet-kansai.org/> (関西支部へは左のURLからご連絡ください)

## 「炭治郎君と禰豆子さん」

里井 久輝 (副支部長)

後期の授業が始まりました。この秋冬学期はオンラインメディア授業が一部残りつつも、対面授業に戻っている大学が多いことと存じます。久しぶりの対面授業では、マスクで顔面積の半分くらいが隠れているとはいえ、学生一人一人を確認できる安心感、キャンパス内で授業を行うということの、普通であることのありがたさ、すばらしさを改めて感じている今日この頃です。

残念ながら新型コロナウイルス感染症の収束にはまだ時間がかかりそうですが、この長い閉塞状況の中であって、大谷翔平選手の今シーズンのさわやかな大活躍はまさに一服の清涼剤でした。清涼感とまったく縁のない者としては、なるほど、こういふときに清涼という言葉を使うのかと、我ながら納得した次第です。学生から教えてもらった「鬼滅の刃」も評判通りのおもしろさで、炭治郎君や禰豆子さんはこれからどうなるのだろうとドキドキしながら楽しんでいました。

何気なく「炭治郎君」や「禰豆子さん」などと申しましたが、これまで授業でも学生を確認するときには同様の呼び方を、すなわち、女子学生には名字に接尾辞の「～さん」、男子学生には「～君」を付けて呼び習わしてきました。古いやつだと思いでしょうが、すでに幼稚園のときからそのように男女別に「～さん」「～君」付けで呼びかけていたので、もし大谷翔平選手がクラスの中にいたとしたら、姓の場合は「大谷君」、名の場合は「翔平君」ときつと呼んでいることでしょう。

ところで、これまでのオンラインメディア授業では、リアルタイムのZOOM音声とオンデマンドとを併用することが多かったのですが、特に学期始めには出席確認で手間取ることが間々ありました。これは予想外のことでしたが、学生の名簿上の名前からだけでは昨今男女の区別がつかないことも多く、また同姓同名であっても異性の場合があつて (1クラス

に同姓同名が3名、うち1名が女子、2名が男子、というクラスもありました)、また、まれに学生の方から自分のことは「～さん/君」付けで呼んでほしいというリクエストもあり、主として音声に頼る当方のオンライン授業では、「～さん」と「～君」を言い誤る事態が多く生じてしまいました。接尾辞を言い誤ると、自分と同姓の別の学生だと思って返事をしてくれない学生が多かつたのです。

これではいけないと思い、また諸事情から「～さん」という呼び方で統一している大学もあるようだと聞きつけ、なるほどそれなら出席確認で間違えることも悩むこともあるまい、と一念発起し後期からは男子学生の名字にも「さん」を付けて呼んでみることにしました。そう言えば、大学時代の一般教養の英語科目で、英文学が御専門の女性教師が、クラスの学生すべてを「さん」付けで呼んでおられたことを思い出しました。それまで授業中に一度も先生から「さん」付けでは呼ばれたことがありませんでしたので、初めて「里井さん」としかも優しい声でその先生に呼ばれたときには、とても新鮮で「なんてエレガントなんだろう」と少しくカルチャーショックすら感じたことを覚えています。

そこで、早速担当クラスで、全員の名字に「さん」付け呼称を実践してみました。ひょっとすると聞いた印象もエレガントに感じてくれたかもしれないなどと期待しつつ、授業後には恐る恐る「名前の呼び方はどうだった？」と学生たちに聞いてみました。「違和感があつた」「うーん、ちょっと気持ち悪かつた」などと、よもやよもやの圧倒的多数で見事に期待を裏切る感想が多く、中には「ぞうっとしました」という男子学生の正直な回答もあつて、エレガントの方向性はエレファントな印象に帰結することになってしまいました。もちろん次の授業からは、まるでなにごとにもなかつたかのように、従前通りの呼び方に戻つたのは言うまでもありません。

さて、天高く馬肥ゆる秋、実りの秋にふさわしい2021年度 JACET 関西支部大会は、「ポスト・コロナを見据えた英語教育」というタイムリーなテーマを掲げて、11月20日（土）にオンラインにて開催されます。基調講演の日野信行先生をはじめすばらしい講師もお迎えし、一期一会の貴重な機会となることと確信しております。多くの皆様の御参加を心よりお待ちしております。（龍谷大学）

## ■ 2021 年度第 2 回支部講演会の報告 ■

JACET 関西支部 2021 年度第 2 回支部講演会が、2021 年 10 月 16 日（土）にオンラインで開催されました。講演会には約 102 名の参加があり、ライティング指導研究会より 蔦田和美先生、野田三貴先生、山下美朋先生、山西博之先生に発表して頂きました。コロナ禍で急速に発展した遠隔授業におけるライティング指導について多角的な視点から 4 名の先生方にご講演頂きました。

日時：2021 年 10 月 16 日（土）15:30～17:00

会場：オンライン（Zoom）参加者約 102 名

テーマ：「遠隔授業でのライティング指導」

演題と講師：

- (1)「Social Citizen としての英語発信ー社会的意識を視野にー」（蔦田 和美 先生・関西外国語大学短期大学部）
- (2)「ESD クラスでのチャットを活用した協働的プレライティング活動」（野田 三貴 先生・大阪市立大学）
- (3)「オンライン下でのプロジェクト発信型英語プログラムの挑戦ーその取り組みと課題」（山下美朋 先生・立命館大学）
- (4)「大学院共通科目アカデミック・ライティングにおけるオンライン（オンデマンド）授業の試み」（山西 博之 先生・中央大学）

司会：大年 順子 先生（岡山大学）

The Kansai Chapter Second Lecture Meeting of the 2021 academic year organized by SIG on "Writing" was held on Saturday, October 16th at Zoom (Online) with 102 participants. The four lecturers gave lectures on writing instruction in distance learning from various perspectives, which has developed rapidly due to the coronavirus pandemic.

Date : October 16 (Sat), 2021, 15:30-17:00

Venue: Online (Zoom)

Theme: "Writing Instruction in Distance Learning"

Titles & Speakers:

(1) English Production as a Social Citizen: Focusing from a Social Awareness Perspective (Prof. Kazumi Tsutada, Kansai Gaidai College)

(2) Collaborative pre-writing activities using chat in an ESD class (Prof. Miki Noda, Osaka City University)

(3) The challenges of online instruction-the case of Project-based English Program in Ritsumeikan University (Prof. Miho Yamashita, Ritsumeikan University)

(4) Report on Online (On-demand) Class for Academic Writing in the Common Graduate Education (Prof. Hiroyuki Yamanishi, Chuo University)

MC: Prof. Junko Ootoshi (Okayama University)

## ■ 2021 年度関西支部大会のお知らせ ■

2021 年度の関西支部大会を以下の要領で開催します。

大会テーマ：「ポスト・コロナを見据えた英語教育」

実施方法：オンデマンドによる動画配信＋Web 会議システムを利用したリアルタイムでの講演、ワークショップ、賛助会員発表 & 一般発表 Q&A

大会日時：2021 年 11 月 20 日（土）9:30～18:30\*

\*オンデマンド動画配信は 2021 年 11 月 14 日（日）から 2021 年 11 月 30 日（火）まで。

参加申込方法：以下の Web フォームよりお申し込みください。

<https://forms.gle/eC1Td9HE5AhLwY35A>

### <基調講演>

講師：日野 信行 先生（大阪大学）

演題：「国際英語」教育の歴史的経緯と基本的課題

### <招待ワークショップ>

講師：木村 修平 先生（立命館大学）

演題：探求型学習から研究型授業への架け橋としての英語と ICT

### <特別講演>

講師：水本 武志 先生（ハイラブル株式会社）

演題：オンラインと対面の話し合い可視化技術とその学習者中心教育への応用

### <研究発表および実践報告>

研究発表 4 件および実践報告 6 件に関する動画をオンデマンド配信し、大会当日には各発表に関するリアルタイムでの Q&A セッションを実施します。

### <賛助会員発表>

賛助会員8社からの発表動画をオンデマンドで配信します。また、大会当日にはリアルタイムでのご発表希望をいただいた2社より賛助会員発表をいただきます。

### <インタラクティブ・ルーム>

「インタラクティブ・ルーム」開催の経緯：コロナ渦が長引く中、今年度も大会をオンライン開催する運びになりました。オンライン学会の意外な利便性に気づかされる一方で、対面学会ならではの談話室でのくつろいだ交流や思いがけない一会のひと時を懐かしく思われている方々もいらっしゃいますかと存じます。そこで、今大会では「インタラクティブ・ルーム」と銘打ち、肩ひじ張らない意見交換の場をオンラインで再現する試みをするようになりました。ランチタイムにはテーマ別意見交換、基調講演後には茶話会的談話を計画しております。参加に必要な準備はありません。休み時間にふらりと休憩室に立ち寄る気分で、ドリンクを片手に、是非気軽にお越しください。

\*詳細は同封のプログラムをご参照ください。

### \* Kansai Chapter 2021 Conference \*

Kansai Chapter 2021 Conference will be held as follows.

Conference Theme: *Looking Ahead to English Language Education in the Post-COVID-19 Pandemic Era*

Venue: On-demand distribution of videos online & real-time keynote lecture, invited workshop, special lecture, publishers' presentations, and Q&A sessions for research paper/practical report presentations.

Date: November 20 (Saturday), 2021, 9:30-18:30\*

\*On-demand video-clips will be available on the JACET Kansai's YouTube Channel from November 14 (Sunday) to November 30 (Tuesday).

Registration: Please fill in the registration form below.

<https://forms.gle/eC1Td9HE5AhLwY35A>

### <Keynote Lecture>

Speaker: Dr. HINO, Nobuyuki (Osaka University)

Title: The Historical Background and Basic Issues of EIL Education (to be presented in Japanese)

### <Invited Workshop>

Speaker: Dr. KIMURA, Syuhei (Ritsumeikan University)

Title: English Education With ICT for Bridging Inquiry-Based Learning and Research-Based Course (to be presented in Japanese)

### <Special Lectures>

Speaker: Dr. MIZUMOTO, Takeshi (Hylable Inc.)

Title: Visualization Technology of In-Face and Online Discussions and its Applications to Learner-Centered Education (to be presented in Japanese)

### <Research Papers and Practical Reports>

During the above-mentioned on-demand period, 4 research paper presentations and 6 practical reports presentations are to be made using the video-clips. On the conference date, all the presenters will join real-time Q&A sessions.

### <Publishers' Presentations>

During the above-mentioned on-demand period, 8 publishers' presentations are to be made using the video-clips. On the conference date, 2 companies will make real-time presentations.

### <Interaction Rooms>

Purpose of holding this event: With the lingering pandemic, the conference is to be held online again this year. While you may have noticed the unexpected convenience of online conferences, you may well miss face-to-face conferences, especially the relaxed conversations and serendipitous encounters in the salon room. On that note, we have arranged two time slots named <<Interaction Rooms>> for such casual conversations and exchange of thoughts. The first session, theme-based discussion, is held at lunch break. The second session, free discussion, is held after the plenary. There is no preparation required to participate; feel free to drop by the virtual room during the break time, with a drink in your hand.

\*Please see the enclosed program for details.

**We look forward to your participation!**

### ■2021 年度第 3 回支部講演会のお知らせ■

2021 年度第 3 回支部講演会は、下記の通り、授業学（関西）研究会による講演会を予定しています。皆さまのご参加をお待ちしております。

1. 日時：2022 年 3 月 19 日（土）15:30～17:00（予定）
2. 場所：オンライン
3. テーマ：大学経営と英語授業学
4. 講師と演題：  
「大学経営と大学教育改革は日々の英語授業実践から」  
飯田 毅 先生（同志社女子大学長・教授）

